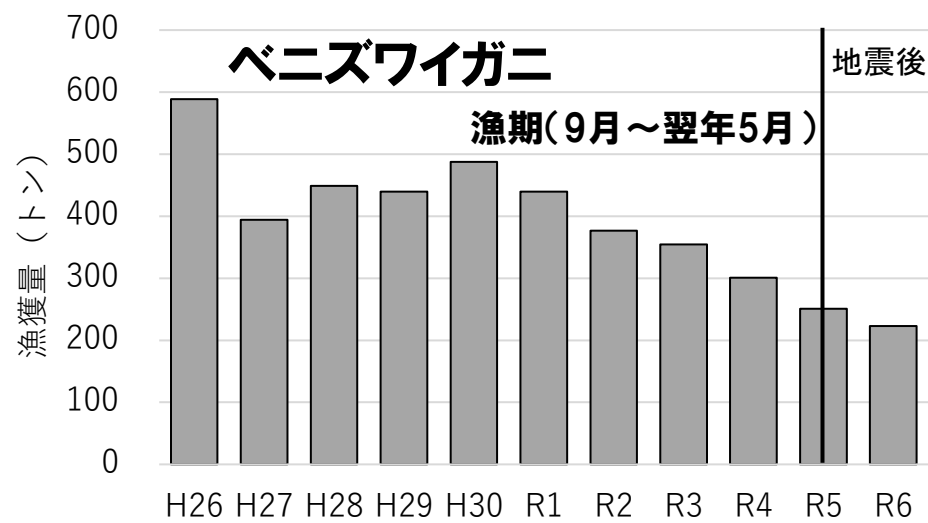
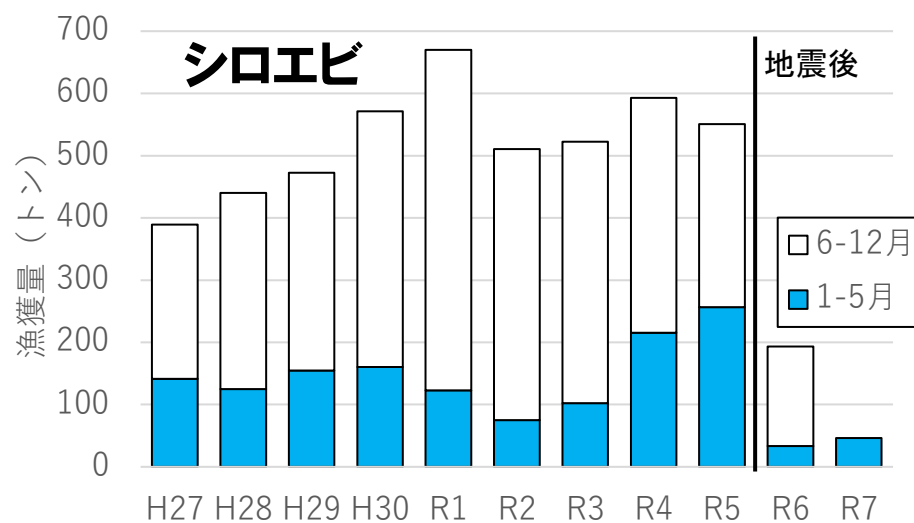


能登半島地震による海域影響調査の実施



地震後の富山湾における水産資源の減少



- ✓ シロエビでは地震から1年以上を経過しても漁獲量が低迷
- ✓ ベニズワイガニでは、地区により回復の程度に差

ベニズワイガニ 漁獲量(トン)	R4	R5 地震後	R6
新湊	64.2	36.5	30.0

能登半島地震による海域影響調査の実施

- 海底の様子や水産資源の現状を把握し、回復に向けた取組みを検討するため、**富山県と国等の協力機関(※)**との連携による**海中ロボットを使用した共同調査を実施**

※内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)

内閣府が統括する省庁横断的な組織。令和5年度からSIPで実施されている「海洋安全保障プラットフォームの構築」において、国内の産業界や大学・研究機関が連携し、安全保障上重要な海洋の保全や利活用を進める課題に取り組んでいる。

能登半島地震による海域影響調査の実施

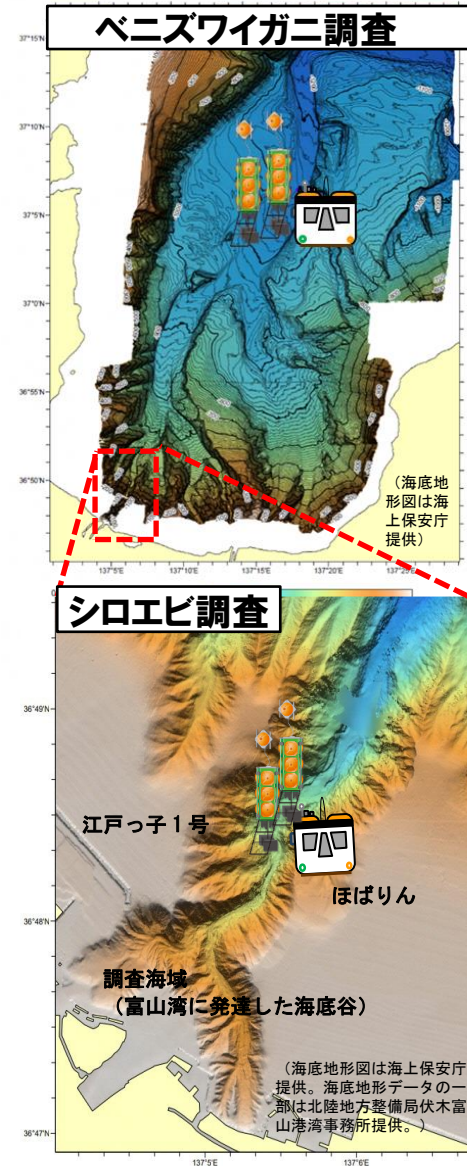
○ 調査の概要

- ✓ **高解像の映像取得**により、富山湾の海底の状況や、ベニズワイガニ等の分布密度を把握
- ✓ 海底付近の海水から「**環境DNA**」を**採集**し、シロエビ等の生息状況を調査
- ✓ 海底付近の水温・濁度等の海洋環境を広範囲で把握

時期：7月29日～8月1日

場所：湾中央部水深1,000m付近(ベニズワイガニ)

新湊沖水深300m前後(シロエビ)



能登半島地震による海域影響調査の実施

○ 調査の特徴

富山湾の深海で海中ロボットを使用した初の水産資源調査

「ほばりん」(ホバリング式自律型無人探査機)

✓ 自動航行による**高解像の映像取得**

→ ベニズワイガニのハサミの大小の判別により
雄(漁獲対象)の生息密度を推定

「江戸っ子1号」(海底設置型観測装置)

✓ 約24時間海底で一定の時間間隔での**高解像の映像取得**

→ 昼夜で分布水深を変化させるシロエビの生態を把握

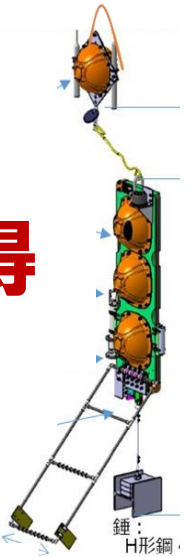
✓ 海底付近の海水から「**環境DNA**」を採集

→ 生き物そのものを採集せずに、分布状況を把握

「ほばりん」



「江戸っ子1号」



(担当：水産研究所)